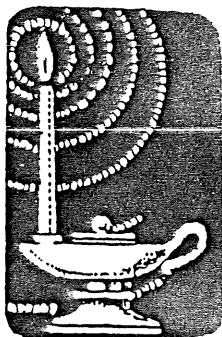


全国看護教育研究会

昭和60年度総会・学術集会

第35回夏期研究会(ワークショップ)



期 間 : 昭和60年7月29日(月)~8月3日(土)

会 場 : 日 本 都 市 セ ン タ ー

主催：全国看護教育研究会

看護学生の自尊感情と学習環境に関する調査

— 私立看護大生への質問紙による因子分析 —

聖母女子短期大学	○ 筒井真優美, 和田サヨ子
聖路加看護大学	高木廣文, 岩澤和子
千葉大学文学部	柳井晴夫
ライフプランニングセンター	大岩外志子
天使女子短期大学	東野妙子

I. はじめに

看護学生を対象とする調査には、学習意欲、看護職への認識、学生生活への適応、臨床実習の受けとめ方などに関するものがあるが、学生自身の内面と、学習環境の関係をとらえた調査は少ない。

Rogers, C.R. によれば、感情や体験が自己概念に矛盾する場合、環境に対する否認が生じるとされている。このことから、学生に関しても、学習環境の受容について、自己概念が重要な役割をもつものと考えられる。また、自尊感情は、自己概念の重要な部分を占め、自分を価値あるものととらえる人は、肯定的な自己概念をもち、環境への適応が容易なものと仮定できるだろう。

II. 目的

本調査では、自尊感情による学習環境の受容に対する影響を検討し、看護学生の自尊感情と学習環境の受容に関する因子を探査することを目的とした。

III. 対象と方法

東京都内の4年制の看護大学の2, 3, 4年生と編入3, 4年生、計166名を対象とし、1983年6月7, 8, 9日に質問紙による調査を行なった。なお回収率は100%であった。

質問紙には速藤ら(1974)の自尊感情尺度23項目を参考に、教師及び友人との対人関係、臨床実習の受けとめ方、学習意欲と看護職への認識に関して33項目を設定した。

分析は、項目間の相関係数、因子分析、分散分析を行なった。

IV. 結果及び考察

1. 自尊感情と学習環境の相関関係

自尊感情尺度の高い人ほど、学習環境を肯定的に受容しており、自尊感情尺度の低い人ほど、学習環境を否定的に受けとめる傾向があることを示唆された。

2. バリマックス法による因子分析

33項目より、5つの共通因子が抽出され、それぞれ、1)他人の目を気にする、2)対人関係のむずかしさ、3)看護への適応、4)劣等感、5)自己に対する自信、と意味づけることができた。

3. 学年による因子得点の差

分散分析により、学年間に有意差が認められたのは、第3因子「看護への適応」であり、編入生が最も高い看護への適応を示し、逆に3年生が最も低いことが示された。また編入生は、自尊感情尺度も高く、学習環境も肯定的に受けとめている傾向があることが示唆された。

3年生に関しては、カリキュラム上実習が極めて多く、学習環境が講義から、病院環境中心になること、あるいは中だるみの時期であることが考えられる。この時期は、3年制看護学校や3年制看護短期大学の2年生の時期に相当すると考えられ、小島、坂口の調査でも2年生が、同様の結果を示している。又、都内の3年制の看護短期大学で、継続研究を行なっているが、同様に2年生の後期に「看護への適応」が有意に低下している。